MITSUBISHI ELECTRIC

販売店・工事店様用

三菱電機 ビル・店舗用 エアコン別売品 加湿器

形名

PAC-KD20CH
PAC-KD26CH
PAC-KD28CH
PAC-KD29CH

取付説明書

もくじ

安全のために必ず守ること……2
1. 使用部品……5
1-1. 同梱部品……5
1-2. 別売部品……5
1-3. 一般市販部品……5
2. 使用箇所……6
2-1. 取付け時の外観……6
2-2. 適用機種……6
3. 取付け前の準備……7
4. 取付要領……8
4-1. 室内ユニットへの接続……8
4-2. フランジの取付け……9
4-3. 配線の接続要領……10
4-4. 給水配管の接続要領……14
4-5. 室内ユニット設定変更要領……15
5. 取付工事後の確認……16
6. 試運転……17
6-1. 加湿器動作およびドレンポンプ動作確認……17
6-2. 加湿シーズン前の点検事項……18
7. 加湿エレメントの交換……19
8. お客様への説明……21

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい取付工事が必要です。取付工事の前に、この説明書を必ずお読みください。

- この製品は国内専用です。日本国外では使用できません。
  This appliance is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.

WT07493X03

安全のために必ず守ること

- この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、取り付けてください。
- ここに記載した注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。

⚠ 警告	取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度
⚠ 注意	取扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度

- 図記号の意味は次のとおりです。

（一般禁止）

（接触禁止）

（ぬれ手禁止）

（一般注意）

（発火注意）

（一般指示）

- お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しください。
- お使いになる方は、本書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事をされる方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠ 警告

電気配線工事は、法令に基づく資格のある電気工事業者に依頼し、「第一種電気工事士」の資格を有する者が行う。（第二種電気工事士は電気工事士法で認められた範囲のみ対応可）

一般事項

⚠ 警告

特殊環境では、使用しないこと。

- 油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用した場合、著しい性能低下・腐食による冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・故障・発煙・火災のおそれあり。

使用禁止

改造はしないこと。

- 水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。

禁止

ぬれた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作したりしないこと。

- 感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

ぬれ手禁止

暖房シーズン前に加湿エレメントを点検し、劣化したエレメントは交換すること。

- 水漏れによりユニットが損傷し、家財がぬれるおそれあり。
- ユニット損傷による冷媒漏れのおそれあり。

指示を実行

⚠ 注意

パネルやガードを外したまま運転しないこと。

- 高電圧部に触れると、感電のおそれあり。
- 高温部に触れると、火傷のおそれあり。

使用禁止

食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しないこと。

- 保存品が品質低下するおそれあり。

使用禁止

運転停止後、すぐにユニットの電源を切らないこと。

- 運転停止から５分以上待つこと。
- ユニットが故障し、水漏れにより家財がぬれるおそれあり。

禁止

部品端面や熱交換器のフィン表面を素手で触れないこと。

- けがのおそれあり。

接触禁止

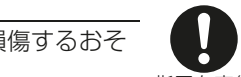
作業するときは保護具を身につけること。

- けがのおそれあり。

けが注意

水回路の温度が0℃以下になるところに加湿器を設置しないこと。

- 水回路凍結によりユニットが損傷するおそれあり。
- 水漏れにより家財がぬれるおそれあり。


指示を実行

運搬・据付工事をするときに

⚠注意

梱包に使用しているPPバンドを持って運搬しないこと。

- けがのおそれあり。

運搬禁止

20kg以上の製品の運搬は、1人でしないこと。

- けがのおそれあり。

運搬禁止

据付工事をするときに

⚠警告

梱包材は破棄すること。

- 窒息事故のおそれあり。

指示を実行

空気清浄器・加湿器・暖房用電気ヒーターなどは販売店または専門業者が当社指定の別売品を取り付けること。

- 不備がある場合、水漏れ・感電・火災のおそれあり。

指示を実行

⚠注意

ぬれて困るものの上に据付けないこと。

- 湿度が80%を超える場合や、ドレン出口が詰まっている場合、室内ユニットからの露落ちにより、天井・床がぬれるおそれあり。

据付禁止

販売店または専門業者が取付説明書に従って取付工事を行うこと。

- 水漏れ・けが・感電・故障・火災のおそれあり。

指示を実行

ユニットは水準器などを使用して、水平に据付けること。

- 据付けたユニットに傾斜がある場合、ドレン漏れのおそれあり。

指示を実行

給水チューブ取付時は、チューブの先端を継手に密着して取付けること。

- 水漏れにより家財がぬれるおそれあり。

指示を実行

排水チューブ取付時は、チューブの先端をドレンパンに収めること。

- 水漏れにより家財がぬれるおそれあり。

指示を実行

電気工事をするときに

⚠警告

配線に外力や張力が伝わらないようにすること。

- 伝わった場合、発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。

発火注意

端子接続部に配線の外力や張力が伝わらないように固定すること。

- 発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。

発火注意

電気工事は第一種電気工事士の資格のある者が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付工事説明書に従って行うこと。電気配線には所定の配線を用い専用回路を使用すること。

- 電源回路容量不足や施工不備があると、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

指示を実行

電源配線には、電流容量などに適合した規格品の配線を使用すること。

- 漏電・発熱・発煙・発火・火災のおそれあり。

指示を実行

移設・修理をするときに

⚠警告

改造はしないこと。ユニットの移設・分解・修理は販売店または専門業者に依頼すること。

- 水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。

禁止

1. 使用部品

1-1. 同梱部品

下記部品が同梱されていますので確認してください。

No.	品名	形状	個数
①	取付けネジ M4 × 12		10
②	ゴムブッシュ		1
③	クランプ （両面テープ付）		3
④	電磁弁試運転コネクタ		1
⑤	フェライトコア		1

1-2. 別売部品

角ダクト仕様の場合は加湿器用角ダクトフランジ（別売部品）が必要です。
PE-RP50 ～ 140DA 形の場合は、加湿器用角ダクトフランジ（別売部品）が必要です。

（ ）内は使用個数を示します。

品名	加湿器：本品	加湿器用角ダクトフランジ：別売部品
機種別対応形名	PAC-KD20CH	PAC-KF50CHF （1）
	PAC-KD26CH	PAC-KF56CHF （1）
	PAC-KD28CH	PAC-KF58CHF （1）
	PAC-KD29CH	PAC-KF59CHF （1）

お願い

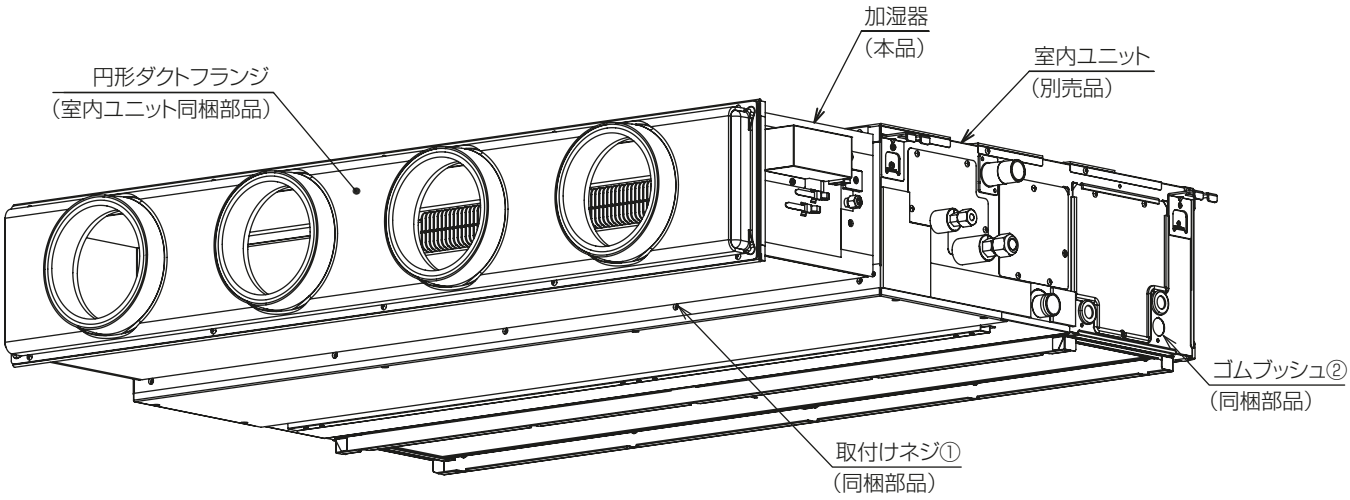
- 角ダクト仕様の場合、加湿器用角ダクトフランジ（別売部品）の取付けを行ってください。
  取付けを行わない場合、風漏れのおそれがあります。

1-3. 一般市販部品

No.	品名	個数	仕様
1	減圧弁	1	水用
2	ストレーナ	1	水用 Y 形
3	閉鎖弁	1	水用
4	給水配管	適量	現地耐水圧仕様品
5	断熱材	適量	結露・凍結防止用

2. 使用箇所

2-1. 取付け時の外観



2-2. 適用機種

お願い

- 適用機種を確認し、取付け間違いのないようにお願いします。

形名	適用機種
PAC-KD20CH	PDFY-P22,28,36GMG 形
PAC-KD26CH	PD-RP40,50,56GA9 形以降
	PE-RP50,56DA9 形以降
	PDFY-P45,56GMG 形
PAC-KD28CH	PD-RP63,71,80GA9 形以降
	PE-RP63,71,80DA9 形以降
	PDFY-P71,80,90GMG 形
PAC-KD29CH	PD-RP112,140,160GA9 形以降
	PE-RP112,140,160DA9 形以降
	PDFY-P112,140GMG 形

メモ

この加湿器は角ダクト仕様と円形ダクト仕様の 2 種類の仕様に対応しています。

- 角ダクト仕様の場合、加湿器用角ダクトフランジ（別売部品）が必要です。
  ※ PE-RP・DA 形の場合、加湿器用角ダクトフランジ（別売部品）が必要です。
- 円形ダクト仕様の場合、円形ダクトフランジ（室内ユニット同梱部品）が必要です。
  ※ PE-RP・DA 形の場合、円形ダクトフランジは同梱していません。

対応機種は下記表となっております。

仕様	適用機種
角ダクト仕様	PD-RP40 ～ 140GA9 形以降
	PE-RP50 ～ 140DA9 形以降
	PDFY-P22 ～ 140GMG 形
円形ダクト仕様	PD-RP40 ～ 140GA9 形以降
	PDFY-P22 ～ 140GMG 形

3. 取付け前の準備

⚠注意

ぬれて困るものの上に据付けないこと。

- 湿度が 80%を超える場合や、ドレン出口が詰まっている場合、室内ユニットからの露落ちにより、天井・床がぬれるおそれあり。

据付禁止

ユニットは水準器などを使用して、水平に据付けること。

- 据付けたユニットに傾斜がある場合、ドレン漏れのおそれあり。

指示を実行

[1] 点検口開口

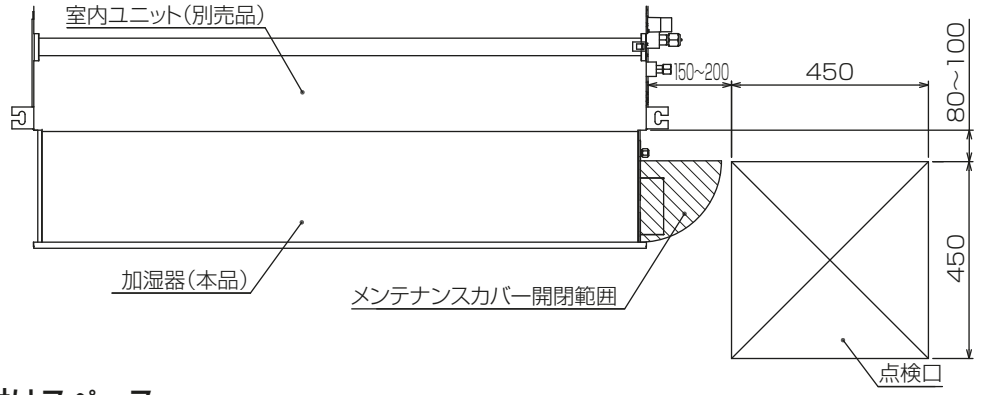
加湿器のメンテナンスのため、下図のように別途点検口を設置してください。

お願い

- 給水配管及び冷媒配管は、加湿器メンテナンスパネル開口位置に施工しないでください。施工した場合はメンテナンス等が困難となるおそれがあります。

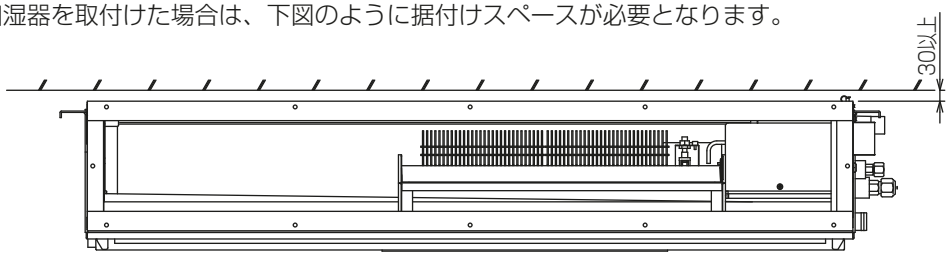
点検口図

単位:mm



[2] 据付けスペース

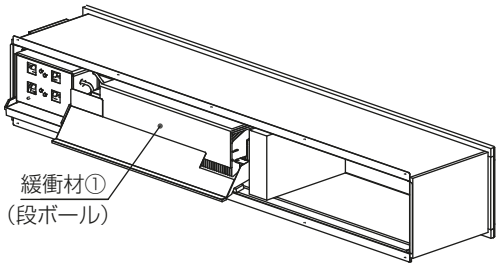
加湿器を取付けた場合は、下図のように据付けスペースが必要となります。

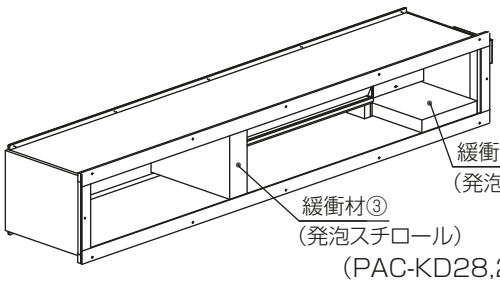


[3] 緩衝材の取り外し

手順

1. 下図に示す緩衝材を取り除く。





(PAC-KD28,29CHのみ)

[4] 水質

- 供給水質は市水、上水またはこれと同等以上の水を使用してください。

※ 供給水が下記水質を満足しない場合は、加湿エレメントの劣化が早まり加湿能力の低下、変色、白粉発生など現れることがあります。

全硬度・・・70mg/L 以下
M アルカリ度・・・50mg/L 以下
溶性シリカ・・・30mg/L 以下
供給水温度・・・5 ～ 40℃

4. 取付要領

お願い

・ 加湿器の取付けは、室内ユニットの据付け前に行ってください。

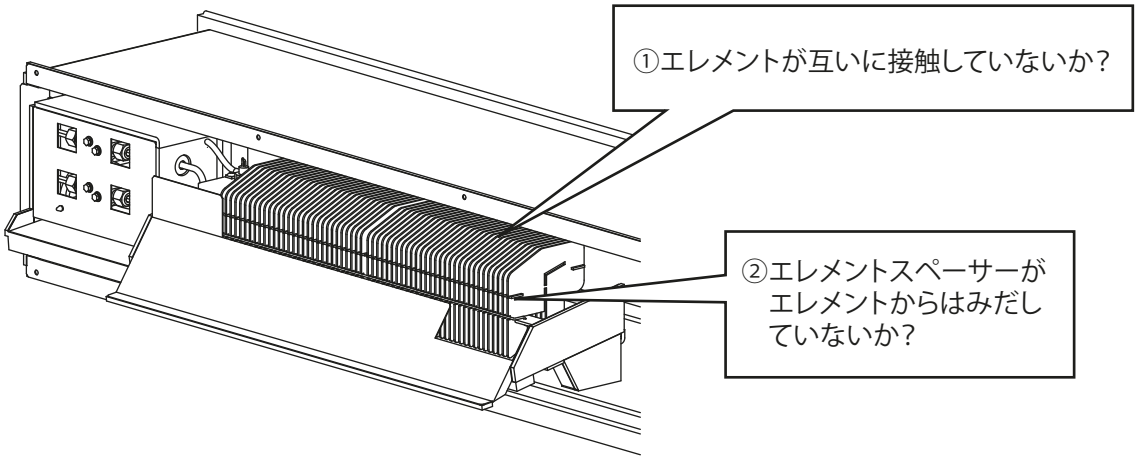
4-1. 室内ユニットへの接続

手順

1. 下図の①、②にしたがって、加湿エレメントについて確認する。

お願い

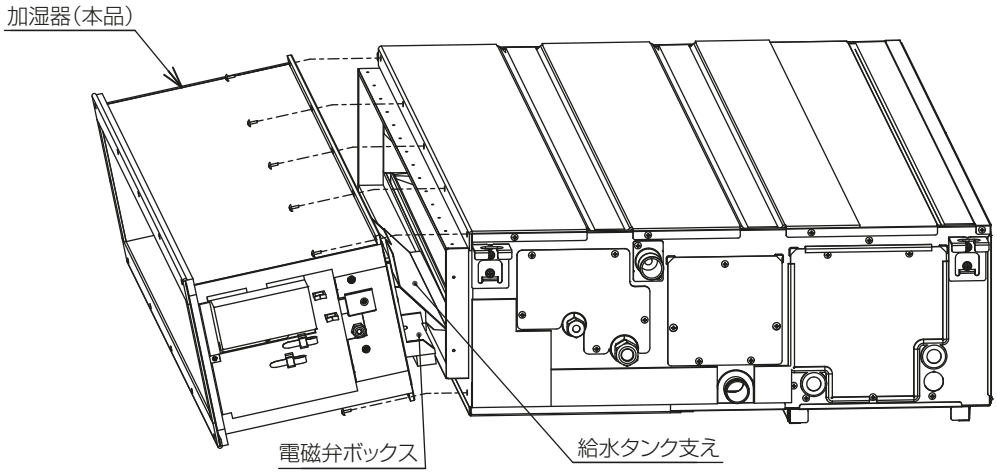
異常が認められる場合は修正してください。



2. 給水タンク支え、電磁弁ボックスの突出部が室内ユニットドレンパンの上部に乗るように加湿器本体を室内ユニットの角ダクトフランジに差し込み、取付けネジ①で室内ユニットに取り付ける。

お願い

給水タンク支え、電磁弁ボックスの突出部は室内ユニットドレンパンの上部に乗せてください。
乗っていない場合は水漏れのおそれがあります。



形名	ネジ締め本数
PAC-KD20CH	6
PAC-KD26CH	6
PAC-KD28CH	8
PAC-KD29CH	10

4-2. フランジの取付け

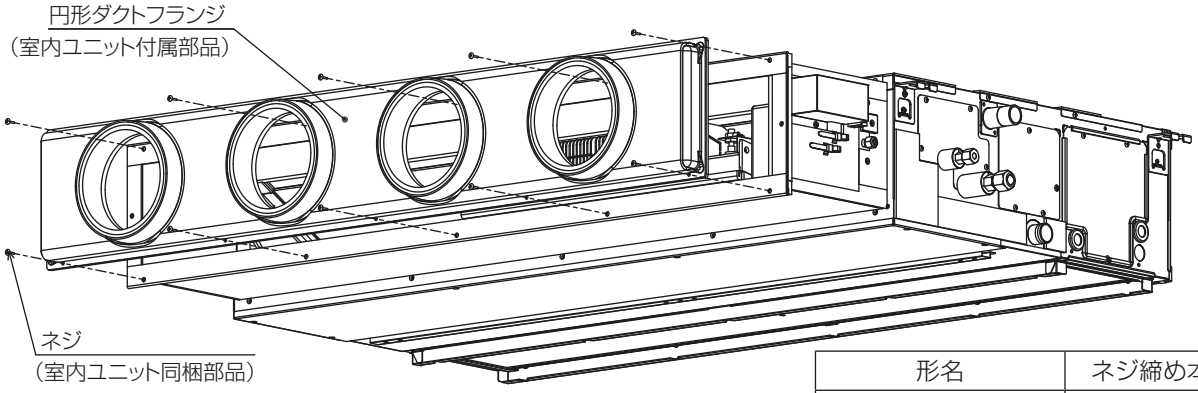
フランジの取付けは、角ダクト仕様と円形ダクト仕様の 2 種類があります。
角ダクト仕様の場合、加湿器用角ダクトフランジ（別売部品）が必要です。

[1] 円形ダクトフランジ（室内ユニット同梱部品）との接続

PDFY-P・GMG 形、PD-RP・GA 形は円形ダクトフランジ（室内ユニット同梱部品）を取付けます。
※ PE-RP・DA 形の場合は、加湿器用角ダクトフランジ（別売部品）を取付けてください。

手順

1. 円形ダクトフランジを室内ユニットに同梱しているネジで取付ける。
2. 接合部に隙間がないことを確認する。
   不備がある場合は、風漏れのおそれがあります。



形名	ネジ締め本数
PAC-KD20CH	6
PAC-KD26CH	6
PAC-KD28CH	8
PAC-KD29CH	10

[2] 加湿器用角ダクトフランジ（別売部品）との接続

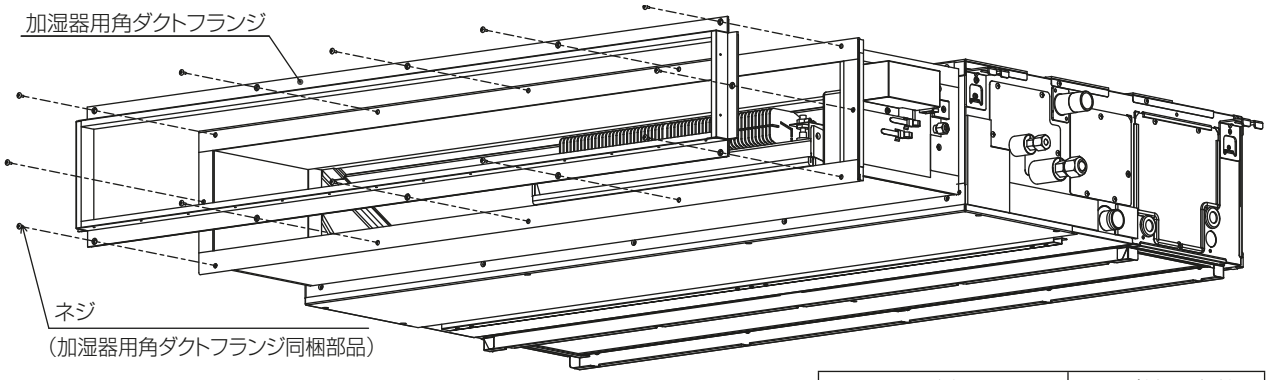
PE-RP・DA 形は、加湿器用角ダクトフランジ（別売部品）を取付けます。
PDFY-P・GMG 形、PD-RP・GA 形で角ダクト仕様の場合、加湿器用角ダクトフランジ（別売部品）を取付けてください。
※ 加湿器（本品）には加湿器用角ダクトフランジは同梱していません。

お願い

- 角ダクト仕様の場合は、加湿器用角ダクトフランジ（別売部品）を取付けてください。
  取付けを行わない場合、風漏れのおそれがあります。

手順

1. 加湿器用角ダクトフランジを加湿器用角ダクトフランジに同梱しているネジで取付ける。
2. 接合部に隙間がないことを確認する。
   不備がある場合、風漏れのおそれがあります。



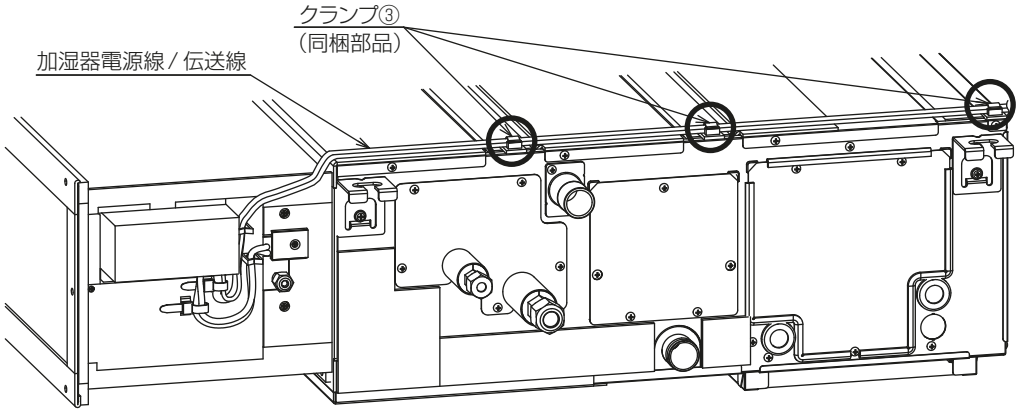
形名	ネジ締め本数
PAC-KD20CH	8
PAC-KD26CH	8
PAC-KD28CH	10
PAC-KD29CH	12

4-3. 配線の接続要領

[1] 室内ユニット本体の配線作業

手順

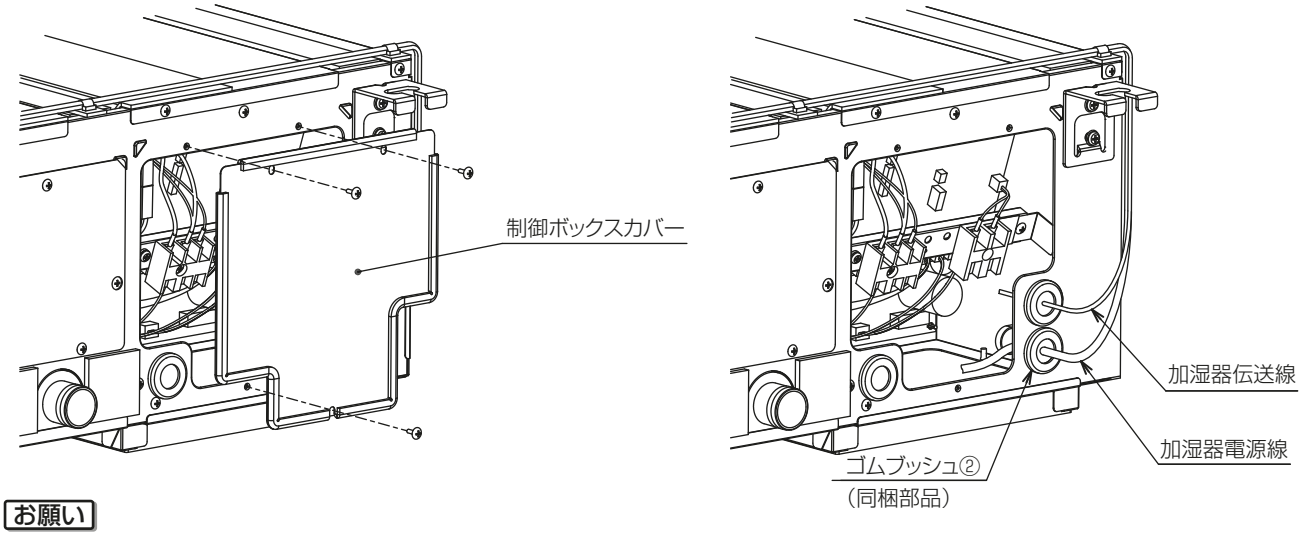
1. クランプ（両面テープ付）③（同梱部品）を室内ユニット上部に貼り付け固定する。（下図参照）



お願い

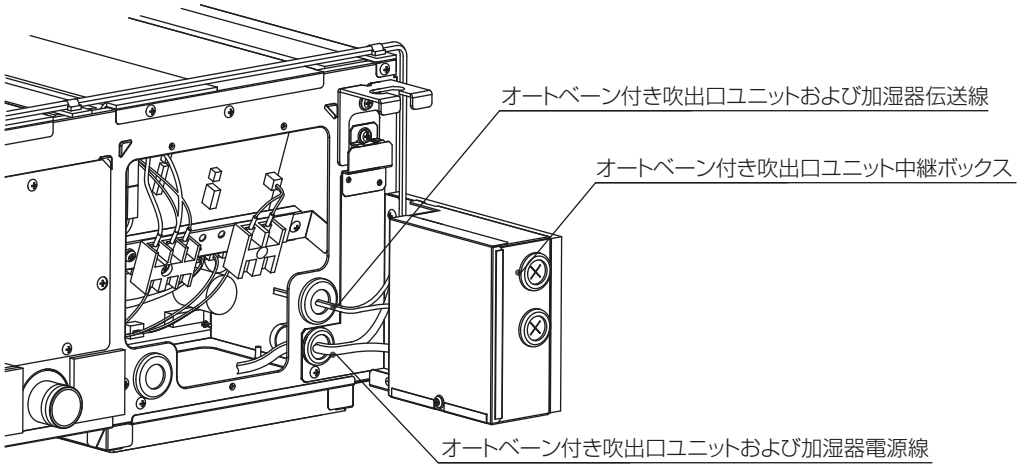
リード線に無理な張力をかけないでください。

2. 室内ユニット本体の制御ボックスカバーのネジを外し（ネジ止め 3 箇所）、制御ボックスカバーを取り外す。
3. ノックアウト穴を空けてゴムブッシュ②を取り付ける。
4. 加湿器電源線及び伝送線を下図に従い制御ボックス内に差し込む。



お願い

- PD-RP・GA9 形以降でオートベーン付き吹出口ユニット（別売部品）と加湿器（本品）を併用する場合は下図に従い配線してください。
- 本加湿器に同梱しているゴムブッシュ②は使用しないでください。
- オートベーン付き吹出口ユニットを取付後、加湿器電源線と伝送線の配線作業を行ってください。

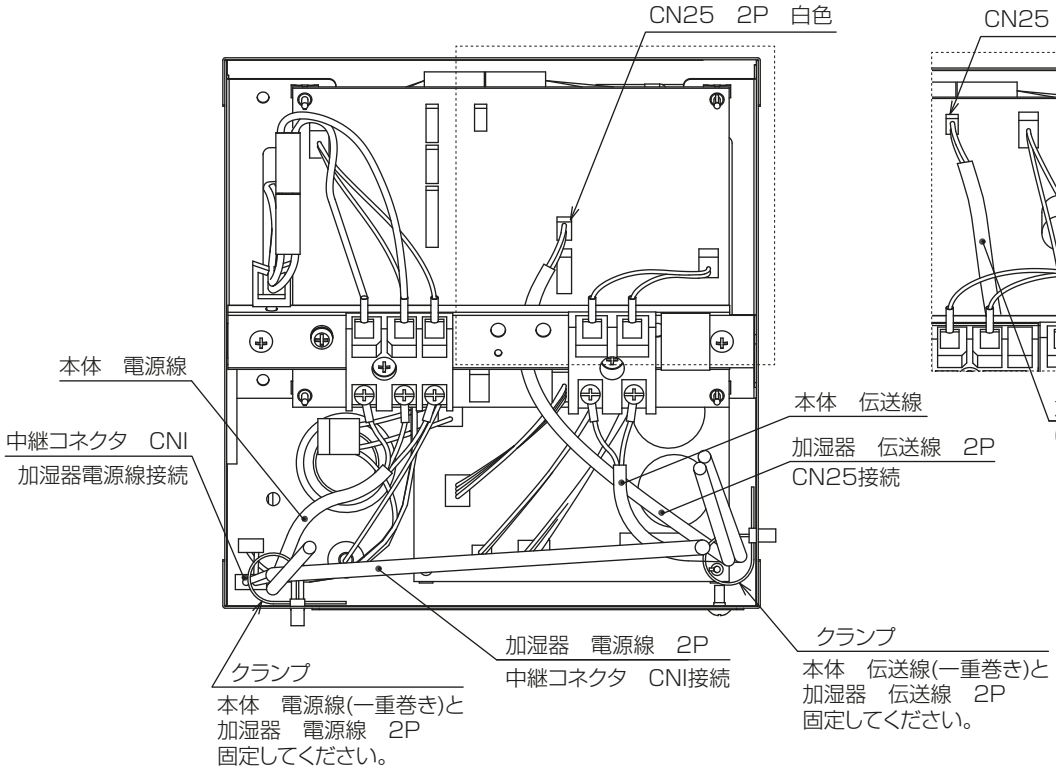


[2] 室内ユニット制御ボックス内の配線作業

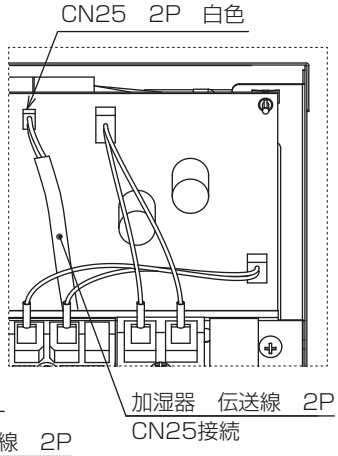
手順

1. 下図にしたがい、加湿器電源線と伝送線を配線する。

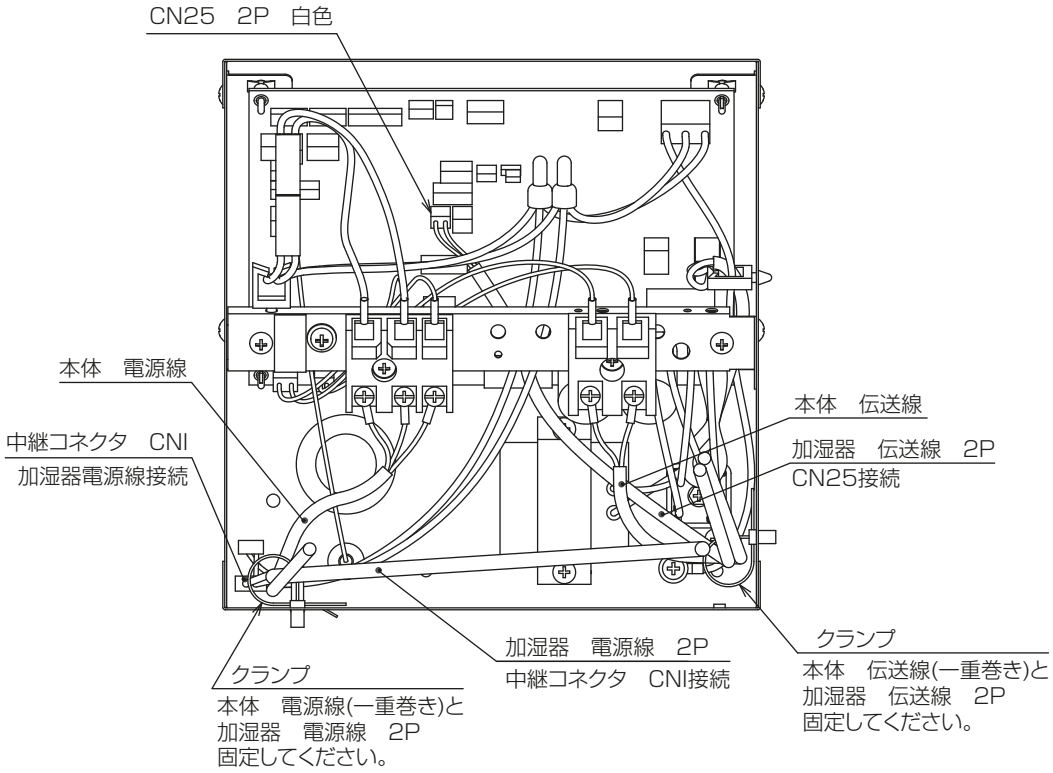
PD-RP･GA9～14形およびPE-RP･DA9～14形の場合



PDFY-P･GMG形の場合

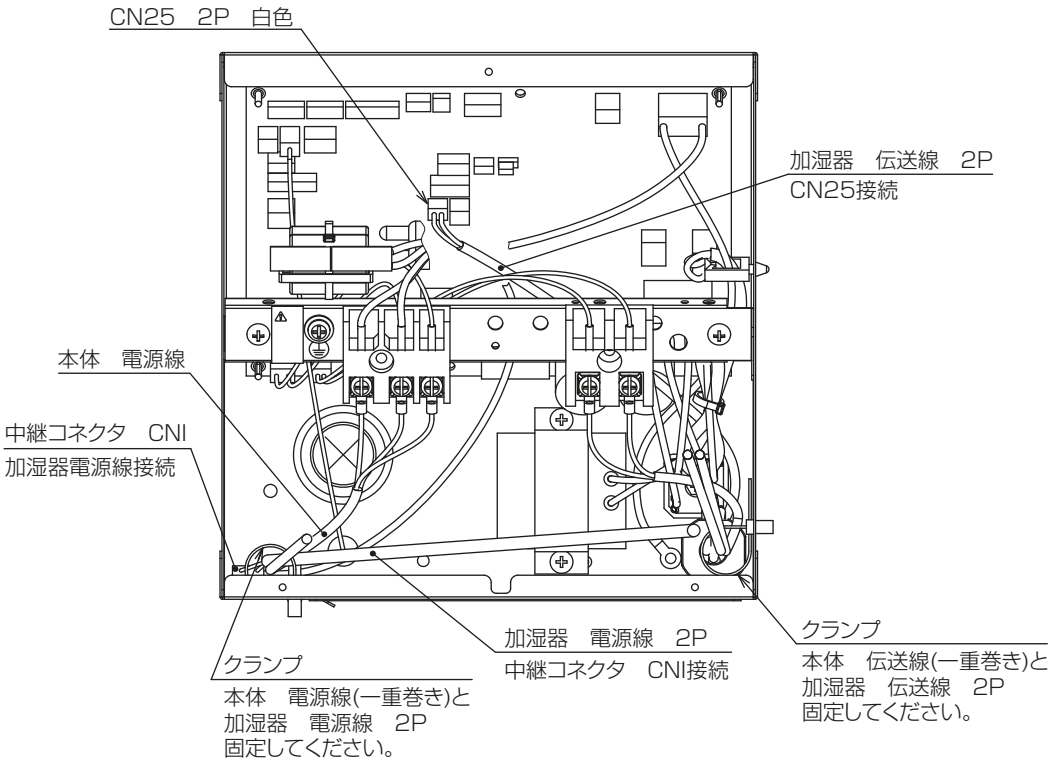


PD-RP･GA15形～17形およびPE-RP･DA15形～17形の場合

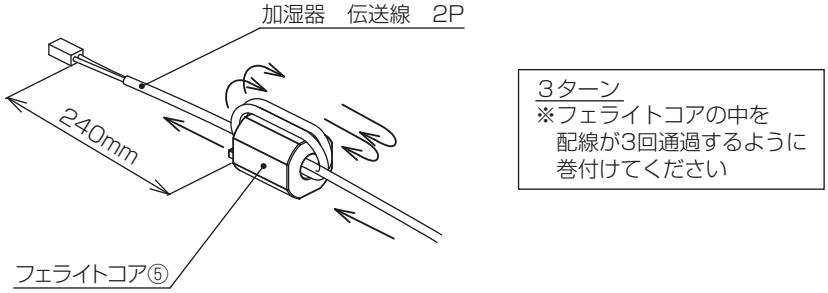


PD-RP･GA18形以降およびPE-RP･DA18形以降の場合

※加湿器伝送線は**制御ボックス内に配線を通した後**、図Aで示す通り、
フェライトコア⑤に**3ターン巻き付け**、下記コネクタに接続してください。



図A　フェライトコア⑤　配線巻き付け



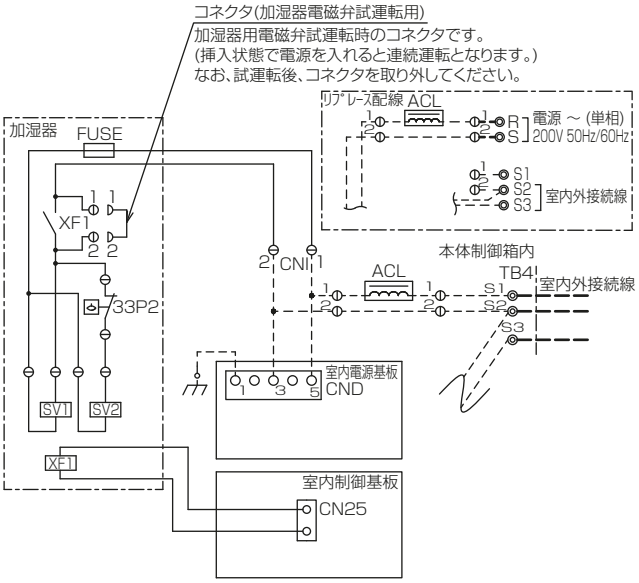
2. 配線作業完了後、逆の手順で制御ボックスカバーを取り付ける。

お願い

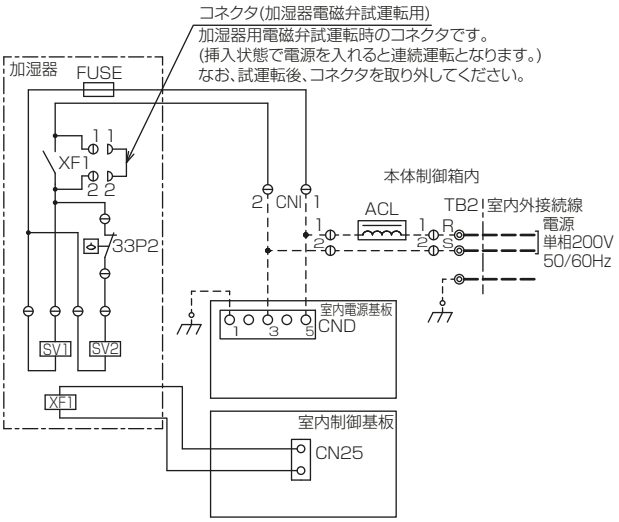
制御ボックスカバーを取付ける際は配線をはさみ込まないでください。断線の原因となります。

[3] 電気配線図

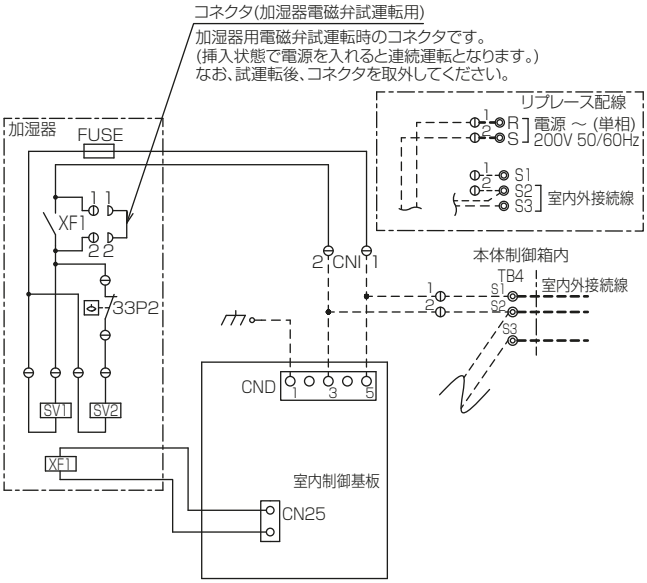
PD-RP･GA9～14形およびPE-RP･DA9～14形の場合



PDFY-P･GMG形の場合



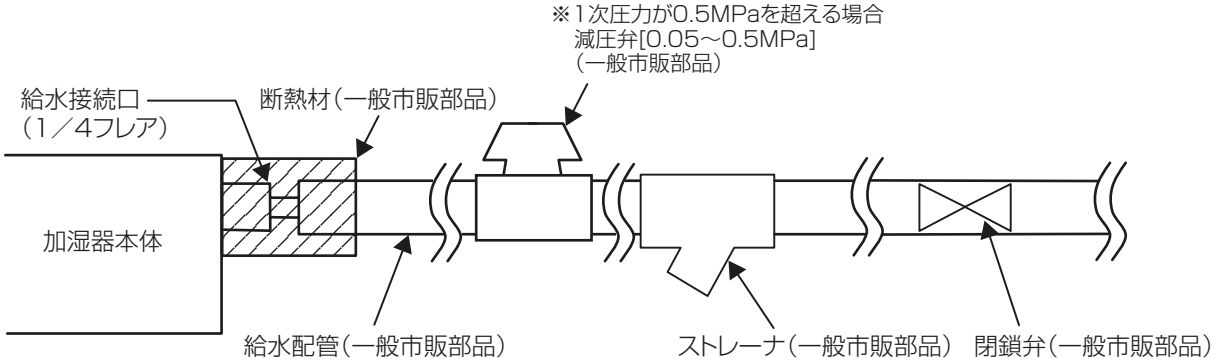
PD-RP･GA15形以降およびPE-RP･DA15形以降の場合



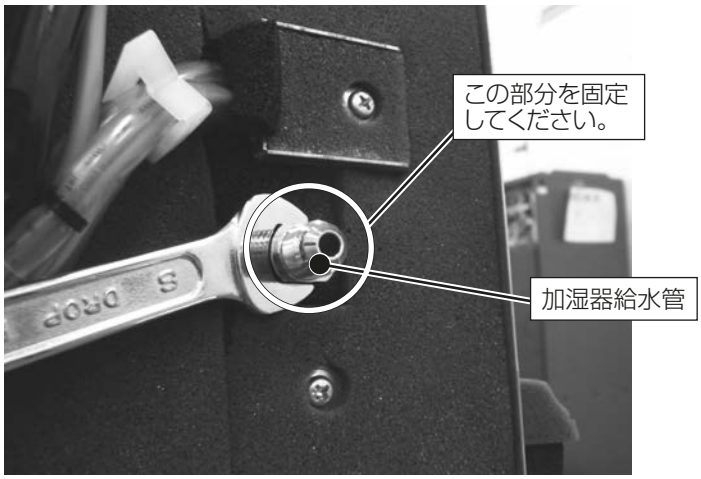
4-4. 給水配管の接続要領

以下は室内ユニット本体を据付けた状態での取付説明です。
室内ユニットの据付けについては、室内ユニットに同梱している据付工事説明書に従ってください。

給水配管は下図を参考にして接続してください。



- 給水には市水または上水を使用してください。ただし、公共の水道管に直接接続することはできません。このような場合はシスターンタンクを御使用ください。水中にゴミがあると弁が詰まり、加湿不能となったり、弁の閉止不良による水漏れの原因になります。
- 一次圧力は 0.05 ～ 0.5MPa の範囲でお使いください。
- 閉鎖弁やストレーナは操作およびメンテナンスしやすい位置に取付けてください。
- 一次圧力が 0.5MPa を超える場合は、減圧弁（現地手配）を取付け 0.05 ～ 0.5MPa に調整してください。
- 屋内配管やストレーナ、閉鎖弁、減圧弁には結露・凍結が防止できる断熱工事を施工してください。
- 給水配管（一般市販部品）を接続する際は加湿器給水管の指定部分をスパナを用いて固定して作業するようにしてください。（下図参照）固定しないと加湿器内の配管が破損するおそれがあります。



手順

1. 加湿器のフレアナットおよびキャップを取り外す。
2. 水配管をフレア加工する。
3. 水配管を接続する。
   フレアナットは、トルクレンチを用いダブルスパナにて 16 ± 2N・m の締付トルクで締めます。
   フレアナットを上記の値より大きな締付トルクで閉めると、ナット破損による水漏れのおそれがあります。

お願い

- 油を使用しないでください。

4-5. 室内ユニット設定変更要領

■PD-RP・GA9形以降、PE-RP・DA9形以降の場合

[1] リモコンによる設定

リモコンにより下記設定を行ってください。
設定方法については、リモコンに付属の説明書を参照してください。

手順

1. モード番号を "13"、設定番号を "2" に設定する。
   設定変更しないと加湿器電磁弁が作動しません。

室内ユニットの暖房時の運転状況による加湿器運転の有無を変更出来ます。

2. 加湿器運転制御について、リモコンにより下記設定を行う。

※ オーナー様、ゼネコン関係者様や建物の管理人様のご希望により変更してください。

モード番号	設定番号	加湿器運転
16	1	室内ユニットが暖房サーモ ON 状態で加湿器運転
	2	室内ユニットがファン ON 状態で加湿器運転 （工場出荷時）

■PDFY-P・GMG形の場合

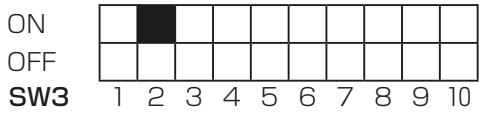
[1] スイッチによる設定

お願い

室内ユニット、室外ユニットの電源 OFF 状態で実施してください。

手順

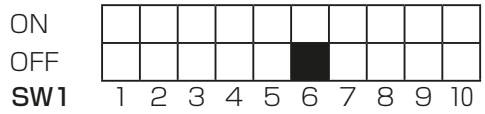
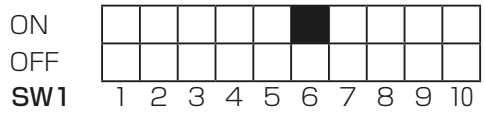
1. 室内ユニット本体制御基板上の SW3-2 を ON にする。
   ON にしないと加湿器電磁弁が作動しません。



室内ユニットの暖房時の運転状況による加湿器運転の有無を変更出来ます。

2. 加湿器運転制御について、スイッチにより下記設定を行う。

※ オーナー様、ゼネコン関係者様や建物の管理人様のご希望により変更してください。

スイッチ設定	加湿器運転
	室内ユニットが暖房サーモ ON 状態で加湿器運転
	室内ユニットがファン ON 状態で加湿器運転 （工場出荷時）

5. 取付工事後の確認

取付工事が完了しましたら、下表に従ってもう一度点検してください。
不具合がありましたら必ず直してください。（機能が発揮できないばかりか、安全性が確保できません。）

No.	チェック項目	チェック欄
1	接続部に隙間がないことを確認してください。（不備がある場合、風漏れや水漏れのおそれがあります。）	
2	水配管接続部に水漏れが無いか確認してください。	
3	水配管の断熱が行われているか確認してください。	
4	誤配線が無いか確認してください。（不備がある場合、火災や運転不能のおそれがあります）	
5	電気品のカバー・パネル（制御ボックスカバーなど）が取付けられているか確認してください。	
6	取付け後に作業の漏れがないかもう一度確認してください。	

6. 試運転

お客様立ち合いで試運転を行なってください。

6-1. 加湿器動作およびドレンポンプ動作確認

給水配管の閉鎖弁を開いてください。（この時、加湿器に水はまだ給水されません。）

[1] 電気工事（室内外電源線及び伝送線配線工事）が完了している場合

(1) 給水確認

手順

1. 電源を入れる。
2. 室内ユニットを暖房運転＜弱風＞にする。
   この時電磁弁が作動し給水が始まります。
   給水が始まってから数分毎にフロートスイッチが作動し、給水が停止します。
   暖房運転中はフロートスイッチの作動と同時にカチッという電磁弁作動音がしますので、それを目安に約 20 分間正常に電磁弁が作動しているか確認してください。

(2) ドレンポンプによる排水性確認

上記運転を 3 時間以上継続し、ドレン口透明可視化部及びドレン配管の最終出口部にてドレン水が排水されることを確認してください。

お願い

試運転完了後、長期間使用しない場合は、給水配管の閉鎖弁を再び閉めて強制乾燥運転をおこなってください。（強制乾燥運転は約 4 時間送風運転するのが目安です。）
強制乾燥運転をせずに長期間使用しない場合、カビ発生のおそれがあります。

[2] 電気工事（室内外電源線及び伝送線配線工事）が完了していない場合

(1) 給水確認

手順

1. 室内ユニット制御基板上のコネクタ（SWE）を ON 側に差し換える。
2. 加湿器制御箱内の下記箇所に付属の電磁弁試運転コネクタ④を取付ける。（下図参照）
3. 室内ユニットの電源端子台に単相 200V を通電する。
   （この時、加湿器とドレンポンプ、送風が強制運転されます。）
   試運転中はフロートスイッチの作動と同時にカチッという電磁弁作動音がしますのでそれを目安に約 20 分間正常に電磁弁が作動しているか確認してください。

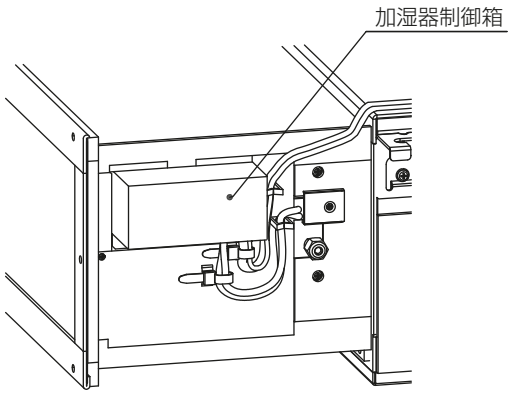
(2) ドレンポンプによる排水性確認

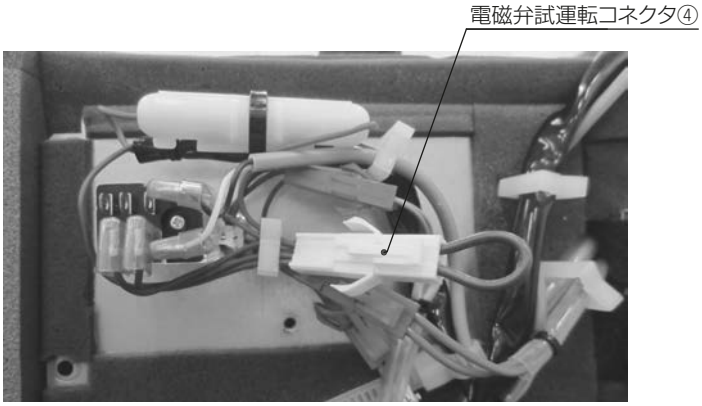
上記運転を 3 時間以上継続し、ドレン口透明可視化部及びドレン配管の最終出口部にてドレン水が排水されることを確認してください。

(3) 給水確認とドレンポンプによる排水性確認後の処置

手順

1. ドレンポンプ試運転コネクタを取り外す。
2. 元のコネクタ（2P）に差換え、制御基板上の SWE を OFF に戻す。





お願い

試運転が完了した後長期間使用しない場合は、給水配管の閉鎖弁を再び閉めて制御基板上のコネクタ（SWE）を ON 側に差し替え強制乾燥運転をお願いします。
（強制乾燥運転は約 4 時間送風運転するのが目安です。）
強制乾燥運転をせずに長期間使用しない場合、カビ発生のおそれがあります。

メモ

自然排水の場合、室内ユニット付属の据付説明書（配管工事の章）に従い工事を行った後に、給水確認をしてください。

6-2. 加湿シーズン前の点検事項

1) エレメントが正常に取付いているか確認してください。
2) エレメントが蒸発残留物およびホコリ･ゴミ等で汚れていないか確認してください。交換の目安は 3 年（3750 時間）です。
3) 保守点検方法
長い間ご使用いただくため、暖房シーズンイン時（汚れの状態により周期を早める）を目安に下記の点検を工事店に依頼してください。なお、保守点検の際は、電源を切ってから行ってください。

点検部品	保守点検内容		保守を怠った場合
	点検項目	処置内容	
ストレーナー	ゴミによる目詰まりの点検	ストレーナーを洗浄してください。	加湿不良
	O リング亀裂の点検	亀裂が生じている場合は交換してください。	水漏れ
給水管	傷や水漏れの点検	傷や水漏れがある場合は部品交換してください。	水漏れ
電磁弁	水漏れの点検	水漏れがある場合は、部品交換してください。	水漏れ
ドレンパン	ドレンパン内の汚れを点検	汚れている場合はドレンパンを清掃してください。	排水不良
加湿エレメント	蒸発残留物、ゴミ・ホコリの点検	エレメントが蒸留残留物、ゴミ・ホコリなどで汚れていないか確認してください。ゴミ･ホコリのみの場合は、エレメントの結合部が外れないように清掃してください（水洗い可）。交換の目安は 3 年（3750 時間）です。	加湿不良 白粉飛散
エアフィルター	ゴミによる目詰まりの点検	フィルターを清掃してください。	風量低下
ドレンアップメカ	排水性能の点検。 汚れ付着、ゴミ詰まりの点検	吸込口の清掃をしてください。 汚れが酷い場合は分解清掃または交換してください。 清掃後、排水性が低下している場合は部品交換してください。	排水不良

4)「6-1. 加湿器動作及びドレンポンプ動作確認」を再度実施してください。

7. 加湿エレメントの交換

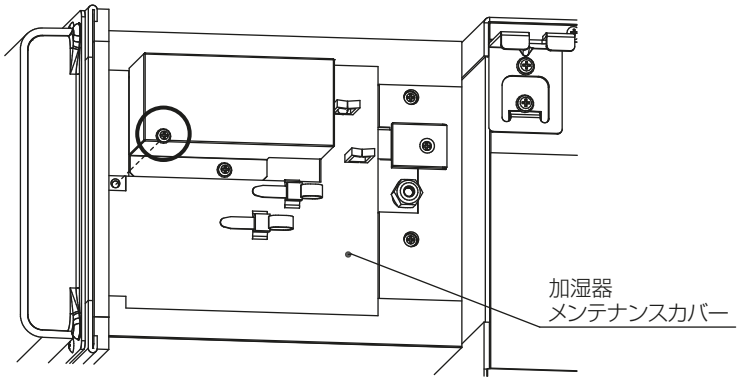
加湿エレメントは交換が必要な消耗部品です。供給水質が市水・上水で硬度 70 以下の場合、交換の目安は 3 年（3750 時間）です。交換目安は保証期間を示しているものではありません。供給水中の硬度、イオン状シリカ、酸消費量が多い場合、加湿エレメントの劣化が早まり加湿能力の低下、変色、白粉発生などがあらわれることがあります。加湿エレメントは以下の手順で交換してください。

お願い

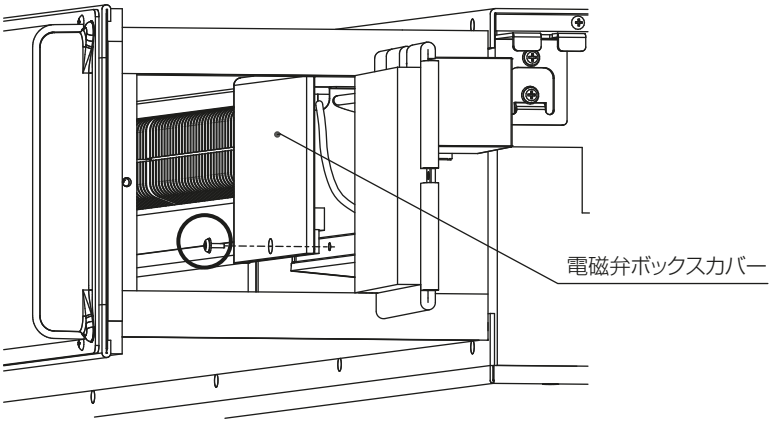
加湿エレメントを交換する場合は、加湿エレメントの強制乾燥運転を行ってください。
強制乾燥運転を行わないと、水漏れのおそれがあります。

手順

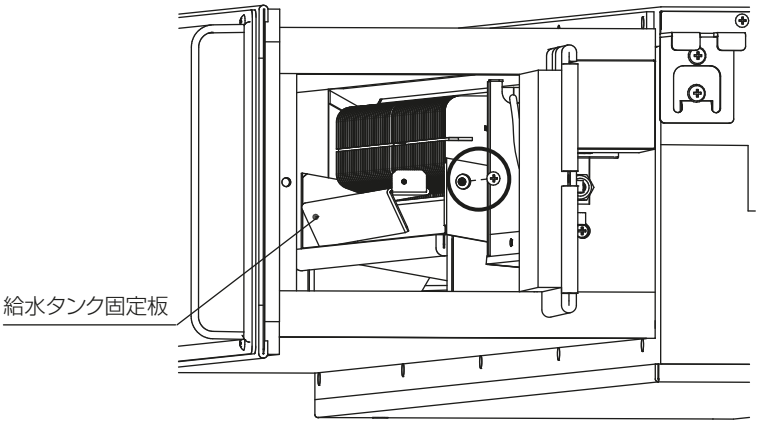
1. 加湿器メンテナンスカバーのネジを外し（ネジ止め 1 箇所）、加湿器メンテナンスカバーを開ける。



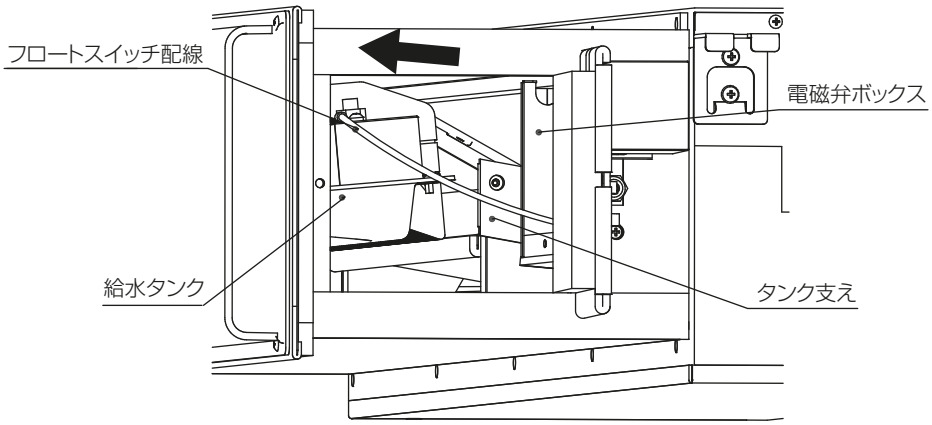
2. 電磁弁ボックスカバーのネジを外し（ネジ止め 1 箇所）、電磁弁ボックスカバーを外す。



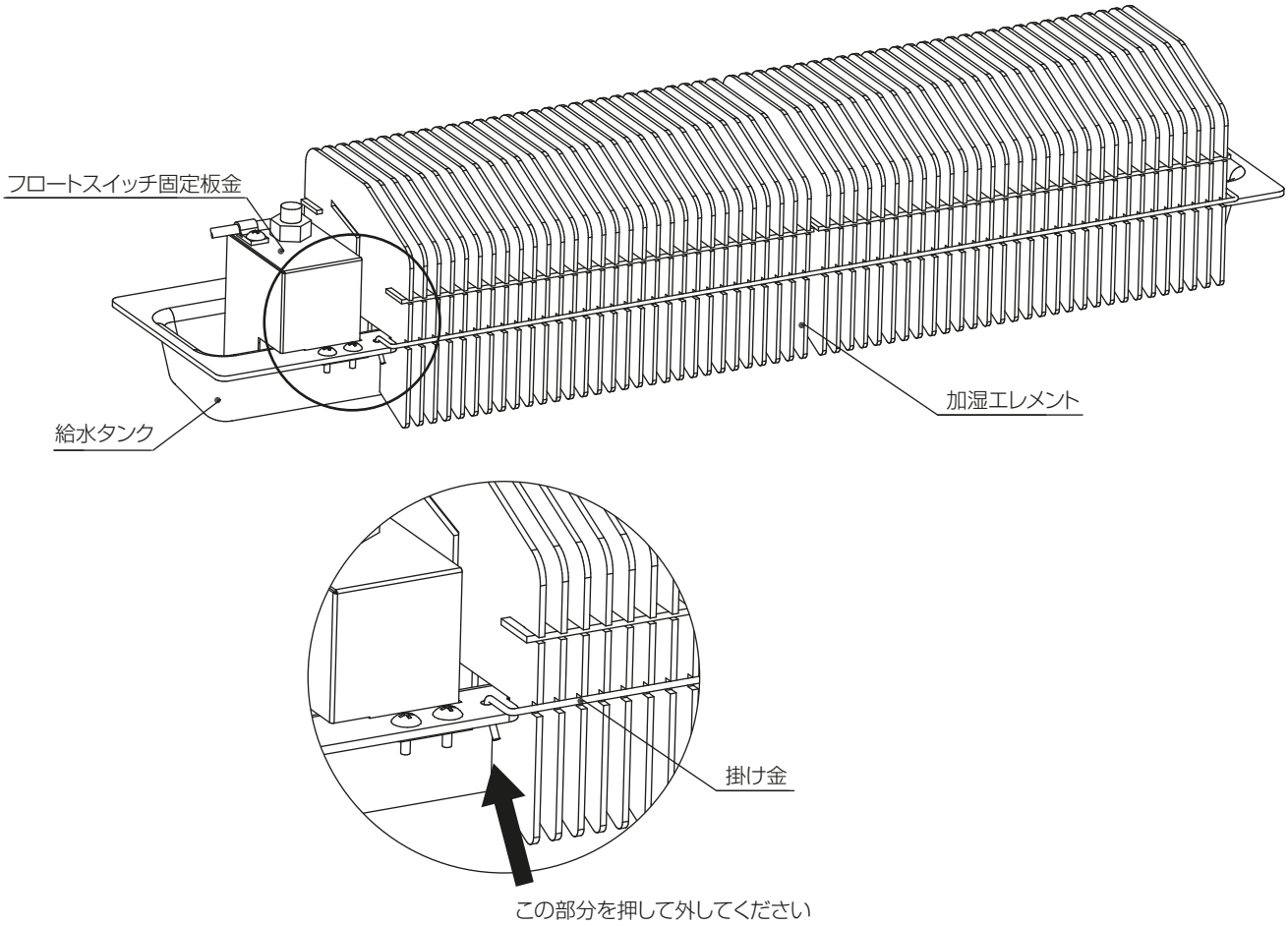
3. 給水タンク固定板のネジを外し（ネジ止め 1 箇所）、給水タンク固定板を外す。



4. フロートスイッチ配線を電磁弁ボックスの切欠きから外す。
5. 給水タンクを図のようにスライドさせタンク支えから取り外し、給水タンクを加湿エレメントが付いたままの状態でメンテナンスカバー開口部からフロートスイッチ部分まで引き出す。



6. フロートスイッチ固定板金のネジ（2箇所）を外し、フロートスイッチ固定板金を給水タンクから外す。
7. 給水タンクと加湿エレメントを取り出す。
8. 給水タンクと加湿エレメントを固定している掛け金を取り外す。
9. 加湿エレメントを交換し、取り外したときの逆の手順で元に戻す。



8. お客様への説明

- お使いになる方に正しい使い方をご説明ください。
  お使いになる方が不在の場合は、オーナー様・ゼネコン関係者様や建物の管理人様にご説明ください。
- 「安全のために必ず守ること」の項は、安全に関する重要な注意事項を記載していますので、必ず守るようにご説明ください。
- この取付説明書は、取付け後、お使いになる方にお渡しください。
- お使いになる方が代わる場合、この取付説明書を新しくお使いになる方にお渡しください。

MEMO

MEMO

ご不明な点がございましたらお客様相談窓口にお問い合わせください。

三菱電機冷熱相談センター

0037-80-2224(フリーボイス)/073-427-2224(携帯電話対応)

FAX(365日・24時間受付)
0037(80)2229(フリーボイス)・073(428)-2229(通常FAX)

三菱電機株式会社

〒100-8310　東京都千代田区丸の内2-7-3(東京ビル)

WT07493X03